

第3回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 平成29年8月11日（金・祝）13時～17時
- ◇会場 森と水の源流館
- ◇参加者 島（郡山西小）、竹田（金橋小）、上田・堂本・阪本（三石小）、河野（附属小）
尾上・成瀬（森と水の源流館）、中澤（きんき環境館）、奥田（関西学院大M）
中澤（奈良教育大） 10名

◇内容

指導案の検討

（1）「水の恵み ～下流にきれいな水を流す村川上村～」郡山西小学校 教諭 島 俊彦

①社会科の授業として

- ・郷土の開発単位では人物を取り上げるが、吉野川分水の場合、江戸時代の高橋でいいのか。

高橋は県南部に降った雨水を大和盆地に引水することを計画しただけなので、取り上げる人物としては弱い。また、児童がアプローチできる資料も少ない。

- ・吉野川分水の工事が終了したのが1987年のことなので、当時の県の担当者などに聞き取り調査ができる。今は名も残っていない担当者であるが、立ち退き問題や用地買収など、相当の苦労があったと思われる。そういった名もなき先人の苦労を学ぶことは意義深いのではないか。
- ・大和平野土地改良区を当たってみること。

②総合的な学習の時間として

- ・なぜ、川上村が「川上宣言」を出すことになったのか。ダム建設との関わりから学ぶことは重要だ（水没した村があった）。
- ・下流にきれいな水を流すための川上村での取り組みを調べ、大和郡山市での今後の取り組みの参考にする。（ポイントは、川上村の住民は下流に流す水の水質について関心があり、責任も感じている。一方、郡山市民の川への関心や水質についての責任感はどうか、ということ。そこに学習前後の児童の変容が表れる）。
- ・大和川には吉野川分水だけでなく、大和盆地を流れる川も入っている。大和川の上流の水質についての情報と川上村の水質についての情報と郡山市よりの下流の水質の情報を比較することで、自分たちに責任の一端があることに気づかせる。
- ・大和川の水質改善については、県の環境政策課あるいは河川課が以前から取り組んでいる。県の取り組みを教材化することで、県の取り組みに参加する児童が表れるといい（行動化）。



(2) 「大きくなあれ わたしたちの野さい」金橋小学校 教諭 竹田隼也

- ・目標に関して：さつまいもの栽培・収穫を通して、育てて食べることの喜びを味わい、季節を感じることができる。というのを「気づき」にしてはどうか。
- ・ESDの学びとしては、「循環」を学ぶことができる。
これまで捨てていたさつまいものツルや葉を家畜のえさとして利用する → 家畜の糞尿からつくられた有機肥料 → 有機肥料を学校の畑に散布 → 次年度のさつまいもの栽培
- ・また、次年度にさつまいものを栽培する下学年の児童へのプレゼントにもなる。
- ・「循環」を説明するだけでは弱い。具体的に連携による「循環」を学ばせてほしい。
- ・宇陀アニマルパークに連携を依頼してみてもどうか。
- ・畑を貸して、世話をしてくださっている方へ児童から手紙を書かせてほしい。



(3) 秋篠川 平城小学校 新宮 済・尾上氏

- ・変更点：ニッポンバラタナゴに関する学習は取りやめる（関連性が薄い）。
- ・川での生き物調べは、川上村でまず行いノウハウを知った上で、秋篠川で実施する。
- ・9月12日の遠足に関して
3学級をそれぞれ2つに分け、2グループ編成とする。

10時15分～11時15分

Aチーム：森シアター→2F→3F

Bチーム：2F→3F→森シアター

11時30分 音無川公園 昼食

12時15分～13時35分

Aチーム：川での観察 → 滝まで散策

Bチーム：滝まで散策 → 川での観察

13時35分 全員で生き物調べに基づく川の評価

- ・川での観察は指標生物による川の水質の調査
- ・滝までの散策は虫（昆虫）や植物調査



授業構想の検討

(1) 6年生総合的な学習の時間：福祉 三石小学校 教諭 阪本 大樹

- ・児童の実態について道徳でアンケート調査を行った。「三石が好きですか」の問いに対して、「どちらでもない」の回答が大多数を占めていたことから、地域への関心が薄いことが伺える。そこで、福祉の視点で三石を見つめる学習を計画した。
- ・福祉の視点とは 高齢者・障害者だけでなく、ベビーカーを押す母親なども対象に
- ・調査活動について：自分たちの目で調べるだけでなく、高齢者や障害者、ベビーカーを押す母親

などへのインタビュー調査も行ってほしい。

- ・1学期に防災キャンプを実施していることから、防災と福祉を併せた視点で考え、学校のホームページや地域の回覧板などを通して、地域に提案できればよい。

(2) 5年生総合的な学習の時間：調べて作ろう 冬野菜編 三石小学校 教諭 堂本・上田

- ・夏野菜を育て、無人販売をしている。
- ・夏野菜の成功体験から、冬野菜栽培への意欲を持たせる。その際、畑を貸してくださっている方、お世話を手伝ってくださっている方への感謝の手紙など感謝の気持ちを表す活動を取り入れることで、意欲が向上する。
- ・もち米の栽培をしているので、お餅をつくることができる。お餅と冬野菜を用いた料理として「お雑煮」の調理に挑戦する。
- ・1月に行く。そこでお正月のお雑煮の写真を撮影しておくように伝える。写真を持ち寄ることで、お雑煮の多様性に気が付く。家族のルーツへの関心が高まる（三石地域は新興住宅地であるため、他府県から引っ越してこられた家庭も多い）。全国お雑煮マップの製作へ。
- ・橋本市で昔から食べられていたお雑煮の調理を保護者や地域の方の協力を得て実施する。
- ・なぜその材料を使うのかなど、地域の気候、地形。歴史などの風土との関連を考えさせる。
- ・作成した全国お雑煮マップを用いて、それらのお雑煮と風土との関係を考察する。
- ・畑を貸してくださっている方、学習に協力してくださった方に感謝の気持ちを伝える。
- ・全国お雑煮マップの発表

